



飼料増産

ホットニュース

第 60 号 2010.1.15

発行者 全国飼料増産行動会議事務局
事務局 (社)日本草地畜産種子協会
〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 8
アSEND 神田紺屋町ビル
TEL 03-3251-6501 FAX 03-3251-6507
<http://souchi.lin.gr.jp/>

イネWCS

徳島県上板町での飼料用イネWCS生産への取り組み

重点
地区

徳島県鳴門藍住農業支援センター 白田 英樹

1 はじめに

飼料用イネ WCS 生産に取り組む上板町高志地区は、徳島県の北東部に位置し、吉野川流域に展開する平坦地域に在り、県内有数の酪農地帯です。



飼料用イネ栽培状況

2 取り組みの経緯及び概要

高志地区では、従来から水田転作作物として飼料作物が栽培されてきました。しかし、畜産農家個々の取り組みとして営まれており、面的なまとまりは多くありませんでした。徳島県及び上板町は、若く熱心な酪農家が多い高志地区を自給飼料生産のモデル的な地域として育成・支援を行って参りました。平成 12 年 4 月には高

志飼料作物生産組合（以下、「生産組合」という。）が設立されました。生産組合は飼料作物の基幹作業の受託組織であり、現在 13 戸の畜産農家と 17 戸の耕種農家で構成されています。

平成 13 年からは牧草栽培不適地を中心に飼料用イネの栽培に取り組み、翌年には飼料用イネ WCS 専用収穫機一式を導入し、飼料用イネ WCS の生産が本格的に開始されました。平成 21 年度には国のリース事業を活用し、細断型ロールバレーを導入して、サイレージの高品質化を図っております。



飼料用イネ収穫風景

協力分担は、JA で事務局及び播種・育苗を、成分分析等は畜産研究所が実施し、技術指導に

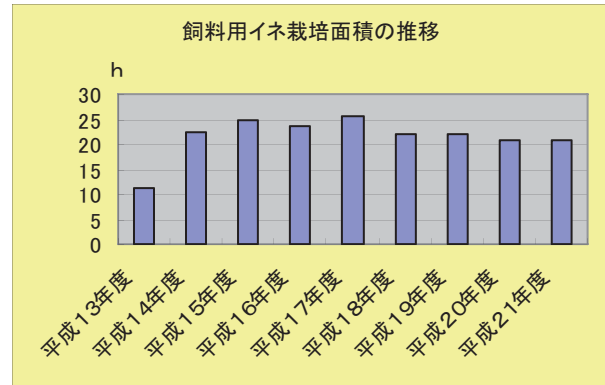
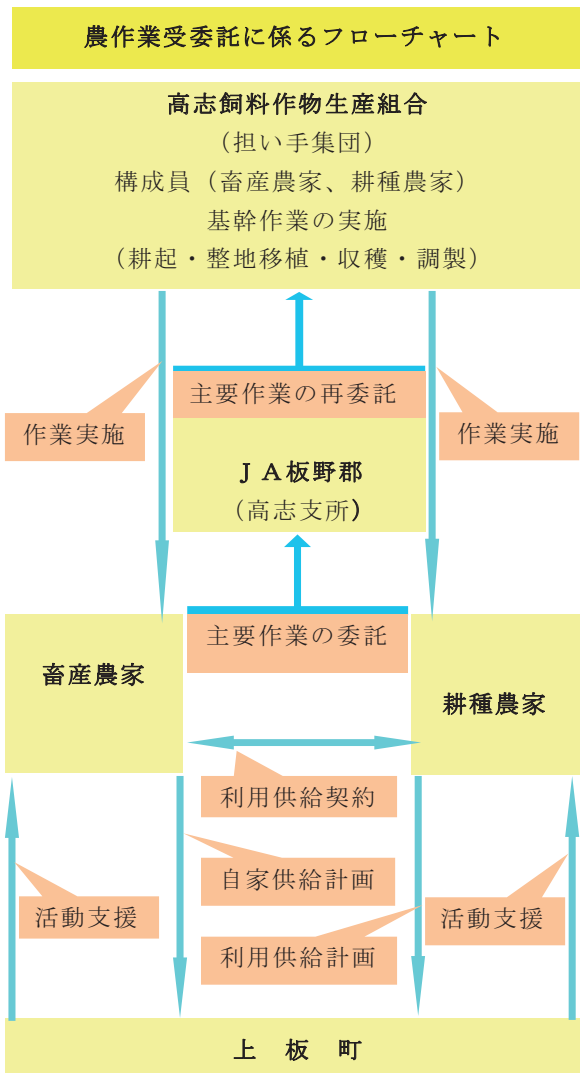
コンテンツ :

- 徳島県上板町での飼料用イネ WCS 生産への取り組み・・・・・・・・・・ 1 頁
- 平成 22 年産飼料用イネ・飼料用米マッチング推進会議（九州地域）・・・・ 3 頁
- 事務局より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 頁

については畜産研究所を中心に J A 及び鳴門藍住農業支援センターで協力して行っております。また、平成 16 年より始まった水田農業構造改革対策では地域の担い手として上板町地域水田農業ビジョンに、生産組合が位置づけられ、上板町の活動支援を受けています。

の収穫作業や冬春野菜（にんじん・かぶ等）収穫作業が重なることから、稲苗供給を J A 育苗センターに頼っています。

10 月中旬には、にんじんの播種作業が開始されるため、9 月中旬に農業用水が止水され、飼料用イネの収穫時期は 10 月上旬が限界となっています。



4 給与の実態

飼料用イネ WCS は、乳用牛・肉用牛共に給与しており、11 月下旬から給与を開始し 1 日 1 頭当たり 3kg～6kg 程度を給与しています。

5 終わりに

生産組合の取り組みによって、畜産農家・耕種農家共に労力と機械装備不要で飼料用イネ栽培が行われており、地域に於いては必要不可欠な組織となっていますが、近年の購入飼料価格の高騰傾向の影響や高齢化等により畜産農家が減少しており、飼料用イネ栽培面積も減少傾向にあります。しかし畜産を継続している農家の栽培面積は維持されています。今後の飼料用イネの面積拡大を図るためには、耕種農家による栽培拡大が必要と思われることから、引き続き育成・支援を行っていきたくと思っています。

3. 栽培・管理体系の特徴

栽培品種は約 19ha が食用品種(ヒノカリが 50% 程度・その他コシヒカリ・キヌヒカリ・イクヒカリ)であり、約 2ha に専用種(クサネ)を作付けしています。

食用品種が多い理由としては、①農業用水止水時期と冬春野菜の作付け時期との関係、②食用品種の組み合わせで収穫時期の分散が可能であること、③嗜好性がよいこと等が主な理由です。

上板町の食用水稲作付のピークは、5 月の連休から 6 月上旬ですが、飼料作物（イタリアライグラス）



保管状況

イネWCS 飼料用米

平成22年産飼料用イネ・飼料用米マッチング推進会議の概要 (九州地域)

九州農政局生産経営流通部畜産課

1. はじめに

飼料用イネ・飼料用米の生産者である稲作経営関係者と利用者である畜産経営関係者の連携を深めるため、九州農政局、社団法人日本草地畜産種子協会の共催により、「平成22年産飼料用イネ・飼料用米マッチング推進会議」を平成21年12月8日に熊本市で、九州地域の約150名の参加者を得て開催しました。



会議会場（事業説明の様子）

今回のマッチング推進会議では、飼料用イネWCS・飼料用米等を対象に重点的な生産振興を行う事業として、平成22年度予算で概算要求している水田利活用自給力向上事業等の説明を行うとともに、飼料用イネWCSや飼料用米の生産・利用の拡大を図るには、生産者である稲作経営関係者と利用者である畜産経営関係者の連携が不可欠であることを踏まえ、先駆的な事例の紹介や養鶏経営、養豚経営、酪農経営、稲作経営、飼料会社、農協、生協等の関係者による意見交換を実施しました。

2. 米戸別所得補償モデル事業等の概要説明

九州農政局生産経営流通部農産課から米戸別所得補償モデル事業及び水田利活用自給力向上事業の概要説明を行うとともに、現段階での制度運営実務の検討方向について説明を行いました。

質疑応答では、飼料用イネWCSや飼料用米を作付けする場合の水田利活用自給力向上事業での助成要件をはじめ、稲わらの飼料利用やたい

肥散布を行った場合に助成が受けられる耕畜連携粗飼料増産対策事業の要件等についての質問が出されました。

3. 取組事例発表

有限会社鈴木養鶏場（大分県）では、平成19年度から採卵鶏へ飼料用米を給与されています。また、平成21年度は、700トン飼料用米（粳）を自社で整備した飼料用米タンクに格納されています。今回の事例発表では、これまで3年間の飼料用米に関する取組や問題点等について発表して頂きました。

質疑応答では、飼料用米の生産者からの購入価格や鶏卵への価格転嫁、卵黄色調整の方法等の質問が出されました。

グリーンコープ連合では、平成21年度に熊本県や福岡県を中心に約1,300トンの飼料用米を確保されており、飼料用米の取組に至った経緯や飼料用米の飼料工場での配合、養鶏経営での卵・若鶏の生産、卵・肉の産直販売の仕組み、今後の計画等について発表して頂きました。

質疑応答では、今後の計画として鶏卵、若鶏、豚肉への利用が予定されているが、牛肉への利用は難しいのかといった質問が出されました。

4. グループ別マッチング

今回、グループ別マッチングは、鶏、豚などの利用畜種別に畜産経営、稲作経営、飼料会社、農協、生協等の関係者が5グループに別れ意見交換を行いました。

養鶏経営関係者からは、「経費を抑えるためには、直接稲作農家との取引が良い」との意見がある一方、「飼料会社からの配合飼料として利用したい」との意見も出されました。

養豚経営関係者からは、「飼料用米の利用は、輸送コスト等の観点から、地域内で取り組みが望まれる」、「飼料用米を給与して生産された畜産物の差別化については、国等による後押しが必要」等との意見が出されました。

地域水田協や農協、市町村からは、「助成単価がアップすることから、作付面積は拡大する見込み」、「作付け面積が拡大すれば稲作農家

と畜産農家をマッチングする機関が必要」、「現在、飼料用イネ WCS の収穫・調製の大部分を畜産農家が行っているため、増加部分に対応する労力不足が懸念」、「異業種からのコントラクター参入等の対応も必要」、「飼料用米の保管場所の確保が課題」等の意見が出されました。

飼料製造会社からは、「ニーズが高まれば、製造を前向きに検討していくが、年間を通じた利用が基本であり、一定量の確保と品質、成分の斉一化が必要」、「価格はともろこしが基準」等の意見が出されました。

生協からは、「来年産飼料用米の買入れについて、青天井とは行かないが、今年度取扱量の2倍以上の受入れは可能」との意見が出されました。

また、県集荷団体からは、「取扱管内の市町村に対し、飼料用米に取り組む意志のある生産者がおられれば、販売先は確保するので、販売先がないことを理由に生産を抑制することがないように」との意見が出されました。

5. 終わりに

今回のマッチング推進会議は、初めての取り組みであったことから、具体的な出荷契約の成立までには至りませんでした。稲作経営、畜

産経営、飼料会社、生協等、何れも飼料用米等の利用拡大に積極的に取り組みたい意向であることや九州管内の関係者が一堂に会し、共通の課題・対応方向等について確認できたこと等、一定の成果が得られました。

また、飼料用米等の調製・保管施設の整備及び周年供給体制の確立が必要なこと等、解決すべき課題も明らかとなりました。

九州農政局では、引き続き関係者への情報提供、関係者の要望・取組状況の把握等に努め必要に応じ再度のマッチング推進会議の開催等を検討する予定です。



グループ別マッチング会場

事務局より

《事務所移転のご案内について》

- 当協会では事務所を移転し、1月18日より新事務所において業務を行います。移転先等については、以下のとおりです。

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8番地 アセンド神田紺屋町ビル4階

TEL 03 (3251) 6501 番 (代)

FAX 03 (3251) 6507 番

<http://souchi.lin.gr.jp/>

《平成21年度全国コントラクター情報連絡会議等の開催について》

- 当協会では標記会議を平成22年2月24日(水)、発明会館(東京都港区虎ノ門)にて開催致します。内容は、①コントラクター情報連絡会議②平成22年度補助事業説明会を計画しており、詳細は後日、当協会ホームページ等でご案内致します。

《平成21年度中国・四国・九州・沖縄ブロック公共牧場長等研修会の開催について》

- 当協会では公共牧場の経営の改善を図るため、公共牧場の場長等の管理者を対象に研修会を2月4日～5日に岡山市で開催します。詳細は当協会ホームページをご覧ください。

《平成21年度関東・北陸・東海・近畿ブロック公共牧場長等研修会の開催について》

- 当協会では公共牧場の経営の改善を図るため、公共牧場の場長等の管理者を対象に研修会を2月25日～26日に静岡県浜松市で開催します。詳細は当協会ホームページをご覧ください。

《放牧アドバイザーによる放牧の現地指導について》

- 当協会では放牧に関する現地指導、講演等を実施しています。耕作放棄地等における肉用牛の放牧技術、搾乳牛の集約放牧技術、公共牧場の集約放牧技術について指導することとしております。なお、放牧アドバイザーの旅費、教材費等については当協会が負担します。詳細については、当協会のホームページをご覧ください。